

# 本書の使用にあたって

## 1) 本書の構成

### 第I部「関節リウマチ診療における超音波検査」

機器設定の方法や所見の定義など、各部位の撮像を行う前に知っておくべき基礎知識を解説しています。

### 第II部「超音波検査で観察が推奨される部位」

まずはじめに各部位の解剖や撮像時の肢位について概説した後に、正常像と病的画像を用いて撮像の方法と読影のポイントを具体的に解説しています。

## 2) 第II部の紙面構成

### 正常像

#### ① 関節エコー画像

左側はBモードの正常画像、右側はそのシェーマです。

なお、シェーマでは下記のように色分けをしています。

青色：骨の輪郭

緑色：軟部組織（筋肉や腱など）

黄色：滑膜肥厚および滑液貯留

#### ② プローブをあてる位置

プローブをあてる位置を、実際の写真とイラストで示しています。

なお、イラスト中の●の方向が関節エコー画像の右側になっています。

#### ③ 正常像の解説

撮像の方法や正常像の所見を解説しています。

### 病的画像

#### ④, ⑤ 関節エコー画像

④はBモード、⑤はパワードプラの画像です。

シェーマの色分けは正常画像と同様です。

#### ⑥ 病的画像の解説

病的画像の所見を解説しています。

### memo

#### ⑦ メモ欄

撮像にあたっての注意点やコツを解説しています。

### [1] 手関節（背側，橈側）

**正常像**

① 手関節（背側/縦断像）

R: 橈骨, S: 舟状骨, ET: 伸筋腱

② プローブをあてる位置

③ 正常像の解説

- ・手関節背側橈側（リスター結節の橈側と第2中手ラインを目安に）にプローブをあてる。
- ・橈骨手根関節（橈骨、舟状骨）を描出する（上記エコー画像参照）、遠位側にプローブを動かすと手根間関節、さらに手根中手関節を観察することができます。
- ・表面近くに伸筋腱が走行する。
- ・骨表面に軟骨が見える。滑液、滑膜は正常でははっきり区別できないことが多い。

**病的画像**

④ Bモード 橈骨手根関節滑膜肥厚・滑液貯留（背側/縦断像）

R, S, T: 大槲形骨, MC: 中手骨

⑤ パワードプラ 橈骨手根関節滑膜炎（背側/縦断像）

⑥ 病的画像の解説

- ・Bモードでは、中等度の滑膜肥厚および滑液貯留。
- ・パワードプラでは、肥厚した滑膜内部に高度の血流を認める。

**memo**

⑦ リスター結節とは？  
橈骨遠位端背側の隆起している部分のことで、橈骨を観察する際のようなランドマークになる（32ページ、解剖図参照）。